

九州産 アカイカ豊漁



北陸で人気の赤イカ（九州ではケンサキイカと呼ばれる）が好調な入荷です。北陸でも漁獲されますが、九州（長崎県対馬沖）は屈指の好漁場であり、例年多く入荷があります。本年の九州産の5月までの累計取り扱い量は前年同月比の約3倍の8万5000箱（1箱あたり約4キロ、40～10尾入り）前後だそうです。6月に入ってからハイペースの入荷だったようです。価格も前年同期比で2～3割安で推移とのこと。北陸産と合わせて今年の価格は弱含みの推移と思われます。ただし、サイズは徐々に小型化してきているようです。豊漁の原因として海水温の変化で大和堆周辺から対馬方面へ漁場が南下した可能性があるそうです。

世界の水産物生産 増加

日本では水産物の消費が減少傾向を辿っていますが、世界に目を移すと、一転して増加傾向にあります。中国をはじめ水産物の生産（従来の天然魚の漁獲と養殖）を増強しておりその結果、2021年の水産物生産量は前年比で1.5%伸びています。世界的なコロナウイルス蔓延で小売需要が伸び、今後はフードサービス分野での需要の回復が見込まれています。特にアメリカの好調な経済回復の動向も気になるところで、相場的には上昇傾向にあるとされています。



【中国の巨大養殖施設】
IT技術を駆使し、生産効率を最大限に高めている。

入荷状況



7月から8月一杯は底引き網が禁漁となり、刺し網や定置網主体の入荷になります。

7、8月の主な魚

魚種
★マグロ
トビウオ
★タチウオ
岩カキ
★サザエ
★コゾクラ(ブリの幼魚)
スルメ、アカイカ
★カマス



- 地物のメジ、マグロは漁獲制限で入荷の身込みはほぼ無いと思われます。一方で山陰から巻き網 本マグロの入荷があります。
- トビウオ 刺身、フライなどに。
- コゾクラ 地物は遅れて入荷の見込みです。煮付けやフライなど。
- タチウオは刺身、焼き物、煮付けに。
- サザエの入荷も潤沢にありそうです。
- アカイカ、スルメイカ 赤イカは順調に入荷。地物スルメイカは水揚げは依然として少ない状況です。

●商品価格等は各担当者にお問い合わせください。